

太母よ

小林まもる

芽吹きときはだんだんと  
始まるのが作法ではないか

太母よ

背戸の雪はまだ消えぬのに  
杉が花粉をまき散らすように  
霜柱の耕した堆土が光るように

太母よ

始まりには終わりの予兆を  
見せてからでいいのではないか

太母よ

それならば  
はつきりと見識できる  
杉の梢の梵字菩薩

遊民は自在に時を弄び  
もう既にあるいは不意に  
裏切ることに慣れてきた  
仕度などには必要ないが  
それでも

待つことは慈しみではないか

太母よ

それならば離陸できよう  
天を衝く卒塔婆  
椋の梢の梵字菩薩